

病院長	副院長	事務部長	看護部長	総務企画課長	経理課長	地域連携相談室長

報告月日 平成 30 年 03 月 15 日
報告者 相良 一枝

地域医療支援病院運営委員会および地域協議会 議 事 録

開催月日	平成 30 年 03 月 14 日（水）18 時 20 分～19 時 00 分		
開催場所	JCHO 北海道病院第 2 会議室		
委員長	中村 保博先生	事務局	地域連携相談室：相良
委員出席者 （敬称略）	[外部委員] 中村 保博（札幌市医師会豊平区支部副支部長） 柳瀬 義博（札幌薬剤師会常務理事） 館 睦子（札幌市豊平区保健福祉部長） 藤岡 喬一（中の島福祉のまち推進センター運営委員長） 佐藤 恵（腎臓内科めぐみクリニック院長） [当病院職員] 広瀬 崇興（副院長兼地域連携部長） 古家 乾（JCHO 北海道病院 病院長）		
委員欠席者 （敬称略）	[外部委員] 佐々木 泉頭（佐々木総合法律事務所代表）		
その他出席者 （敬称略）	[当病院] 堀 由美（看護部長） 小野寺 正逸（事務部長）		
要旨	議題 1、平成 29 年度 当病院の地域医療連携の現況報告 ① 紹介患者数・紹介率の推移②逆紹介患者数・逆紹介率の推移③病棟・外来利用の推移 ④共同利用（施設・設備・病床）について ⑥地域医療研修ついて、広瀬委員より資料に基づき報告。 紹介率は算定基準の 50%を超えている。地域医療研修について、循環器内科の縮小により、回数が減っている。 3、その他 「JCHO カフェ」地域講演会報告 在宅懇話会、南部呼吸器懇話会、リバーサイド消化器懇話会、メディエーションマインドを学ぼう、等報告する。13 日 認知症サポーター研修を JR タワー職員向けに開催し参加者 300 名であった。セミナーオープンシステム開始の報告をする。 中村保博委員長より質問		

1. 病床利用率は適切なのか

古家院長より 循環器内科がひとつの病棟を持っていたが縮小になってしまったので、影響がある。循環器が再開できれば85%以上と思っている。

古家院長より質問あり、このたび「1000年カルテプロジェクト」という研修を行った。電子カルテを導入している病院向けであったが、10施設ほどの参加であった。電子カルテの導入はしているか。

佐藤委員より「導入していない」中村院長より「導入していない。新しく開業するクリニックで導入していかも知れない。」柳瀬委員より、「スマートフォンで薬剤情報を管理できるが10%の普及率である。カードで管理しているのが手稲溪仁会病院を中心とする薬局ではあるがまだ、少ない。」館委員より「予防接種台帳のみ電子化している。」

柳瀬委員より、当院耳鼻科の処方せんが薬局に来たが、メチコバル、トリノシンの処方箋で二つの薬剤に後発薬の禁止が示されていた。メチコバルは後発品のない後発薬なので、間違っているのでは。広瀬副院長より当院では患者が希望した場合に記入されることになっている。患者の希望でそのような対応をしたが、メチコバルについては知識が不足していた。

次回 5/9